

# 水土里情報システム 活用操作研修

秋田県土地改良事業団体連合会



## 目次

1. ユーザレイヤの作成.....	1
1.1. ユーザレイヤの新規作成.....	1
1.2. 図形の新規作成（点）.....	4
1.3. 図形の属性入力.....	5
1.4. 既存のレイヤからユーザレイヤを作成.....	9
1.5. 図形の新規作成（多角形）.....	12
1.6. 図形の属性編集（個別）.....	13
2. ユーザレイヤの更新.....	16
2.1. 図形の形状変更.....	16
2.2. 図形の削除.....	20
2.3. 図形の属性編集（一括）.....	22
2.4. ユーザレイヤの削除.....	31
3. データ共有.....	32
3.1. レイヤ権限について.....	32
3.2. 表示パターンと公開範囲について.....	32
3.3. ユーザレイヤ、表示パターンの共有利用例.....	33
3.4. 関連ファイル.....	34
3.5. シェープファイルのインポート.....	35

# 1. ユーザレイヤの作成

ユーザレイヤは利用者（ユーザ）が自由に作成可能な地図データ（レイヤ、図形、属性）です。CSV ファイルや SHAPE（シェープ）ファイルのインポートが行えます。

新規に作成する方法と、既存のレイヤから必要なデータをコピーして作成する方法があります。

- ※ ユーザレイヤに登録されたデータは所属団体（グループ）内で共有できません。
- ※ 事前準備として、ユーザレイヤを追加したい表示パターンを表示しておきますが、ログインしているユーザ以外が所有する表示パターンではユーザレイヤの作成ができません。（本例では、グループ管理者が作成した表示パターン「施設位置図サンプル」を複製し、「施設位置図サンプル\_xx」を作成して作業します。「\_xx」には自分の PC 番号を入れてください）

## 1.1. ユーザレイヤの新規作成

1. 「データ」タブ内の「レイヤ作成」を選択します。



2. レイヤの作成画面の「基本」タブ内にて、作成するレイヤの名前の入力とレイヤの種類を選択を行います。



点	施設や事象が発生した位置などを表します。
線	道水路や境界線、経路などを表します。 方向の情報を持っているので矢印などで表現できます。
多角形	範囲や区画を表します。図形を塗りつぶして表現できます。
円	円または楕円形で範囲などを表します。

3. レイヤの作成画面の「属性」タブ内にて、基礎属性の定義作成を行います。  
属性項目の定義として、「表示名」、「項目名」、「型」、「長さ」、「小数桁」、「NULL 許可」、「規定値」を設定します。

属性タブでは以下の設定を行うことができます。

No.	名前	説明
1	表示名 (必須)	属性項目の表示名を設定します。 表示名は、情報表示、属性検索、色分け設定、ラベル設定、属性修正の画面内で表示される名前です。
2	項目名 (必須)	属性項目の項目名を設定します。 項目名は、データベース内で管理される項目名です。 以下に項目名の制限事項を記載します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・重複する項目名は設定できません。</li> <li>・項目名の先頭 1 文字目が数値は設定できません。</li> </ul> →例：○ : text1、× : 1text
3	型 (必須)	属性項目の型の種類を設定します。 ※一般的な型 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字列：全ての文字</li> <li>・数値：小数点桁数が 28 桁まで指定可能な数値</li> <li>・日付：年月日、時分秒</li> <li>・True/False：0 または 1</li> </ul> ※高度な型 <ul style="list-style-type: none"> <li>・32 ビット整数：-2, 147, 483, 648~2, 147, 486, 647 の数値</li> <li>・64 ビット整数：-9, 223, 372, 036, 854, 775, 808 ~9, 223, 372, 036, 854, 775, 807 の数値</li> <li>・単精度浮動小数：最大有効桁数が 7 桁の数値</li> <li>・倍精度浮動小数：最大有効桁数が 15 桁の数値</li> </ul>
4	長さ	型が文字の場合の最大の長さを設定します。(必須) 長さの最大は 4000 です。
5	小数桁	型が数値の場合の小数桁数を設定します。(必須) 小数桁の最大は 28 です。
6	NULL 許可	項目に空の値を設定可能かどうかを設定します。 空の値を許可する場合にチェックをします。
7	既定値	項目の値に何も入っていない場合に自動で設定される値を設定します。 ・NULL 不許可の場合必須

4. レイヤの作成画面にて、「作成」ボタンをクリックします。

レイヤの作成

基本 属性 権限

属性情報:

選択	表示名	項目名	型	長さ	小数桁	NULL許可	規定値
<input checked="" type="checkbox"/>	管理番号	管理番号	数値	10	0	<input type="checkbox"/>	0
<input checked="" type="checkbox"/>	施設名	施設名	文字列	30		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	工種	工種	文字列	10		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	管理者	管理者	文字列	50		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	規格	規格	文字列	100		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	受益面積(ha)	受益面積(ha)	数値	4	2	<input type="checkbox"/>	0
<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>	

全選択 全解除 + - 作成 閉じる

※ 設定に不具合がある場合は、メッセージが表示されます。

※ 浮動小数点の属性には長さや小数桁は指定できません。数値を入力しても保存時にクリアされます。

5. 表示パターンにユーザレイヤが追加されました。

必要に応じてレイヤパネル内でドラッグし、レイヤの表示順を修正してください。

また、「編集」タブ内の「レイヤ設定」等での表示の設定をしてください。



※ 作成したユーザレイヤは新規または他の表示パターンでも利用できます。

## 1.2. 図形の新規作成（点）

1. レイヤパネルから編集対象とするレイヤ（本例では1. 1で作成したユーザレイヤ）を選択します。



2. 「レイヤ編集」タブ内の「編集開始」を選択し、レイヤ編集画面で「確定」ボタンをクリックします。



3. 「レイヤ編集」タブ内の「点」を選択します。



4. 作図する位置を左クリックして点を作図します。



※ レイヤの種類が異なる図形は作成できません。

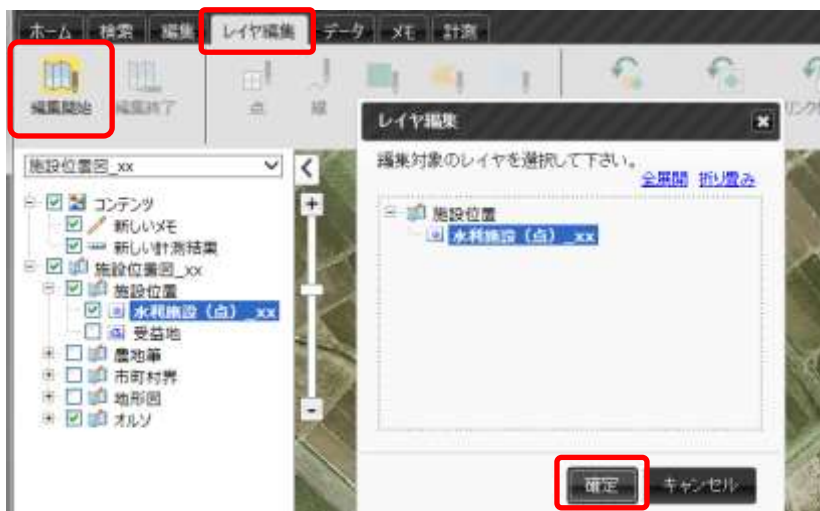
例：点のレイヤ線データ、多角形など

### 1.3. 図形の属性入力

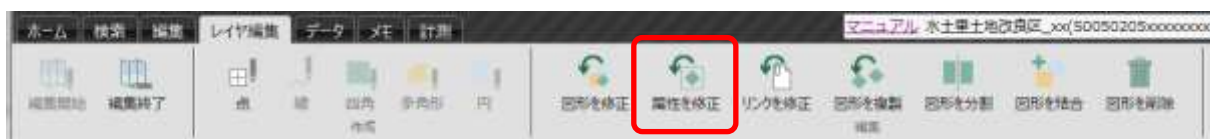
1. レイヤパネルから編集対象とするレイヤ（本例では1. 1で作成したユーザレイヤ）を選択します。



2. 「レイヤ編集」タブ内の「編集開始」を選択し、レイヤ編集画面で「確定」ボタンをクリックします。



3. 「レイヤ編集」タブ内の「属性を修正」を選択します。  
マウスカーソルが指さしの形になります





- 属性入力対象の図形を、マウスの左クリックで地図から選択します。  
図形が選択されると対象の図形が赤くハイライトされます。  
選択された図形を再度左クリックで選択します。



- 属性編集画面が表示されるので各属性項目の値を入力し、「変更」ボタンをクリックします。「編集終了」を選択し編集作業を終了します。



## 【操作練習】

水利施設（線）レイヤを作成し、水路を作図して用排水路を色分けして表示しましょう。

1. 以下の通り、ユーザレイヤを新規に作成します。

レイヤの作成

基本 属性 権限

名前: 水利施設(線)\_xx

レイヤの種類: 線

座標系: 平面直角座標(世界測地系)XJCS

※必ず「線」を選んでください

レイヤの作成

基本 属性 権限

属性情報:

選択	表示名	項目名	型	長さ	小数桁	NULL許可	規定値
<input checked="" type="checkbox"/>	管理番号	管理番号	数値	10	0	<input type="checkbox"/>	0
<input checked="" type="checkbox"/>	施設名	施設名	文字列	30		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	工程	工程	文字列	10		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	管理者	管理者	文字列	50		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	規格	規格	文字列	100		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	用排水区分	用排水区分	文字列	2		<input checked="" type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>	延長(m)	延長(m)	数値	8	1	<input type="checkbox"/>	0
<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>	

2. レイヤ設定で、線の太さと矢印を設定します。

ホーム 検索 編集 レイヤ編集 データ XE 計測

レイヤ設定 色分け設定

水利施設(線)\_xxの設定

基本設定 描画設定 色分け設定 ラベル設定 属性情報 フィルタ 詳細情報

基本

線の種類: 実線 線の色: [黒]

線の透明度: [0%]

線の幅

画面上の線幅: 2 px

印刷時の線幅: 2 1/10mm

先端の形状

始点: 通常

終点: 通常, 四角, 丸型, 三角, 四角アンカー, 丸型アンカー, 矢印アンカー, 矢印アンカー

OK

※必ず「終点」を「矢印アンカー」にして下さい

3. 水路を作図し、属性を入力します。

管理番号	2000000001
施設名	1号用水路
工程	
管理者	水土里土地改良区
規格	FH800×B1200
用排区分	用水
延長(m)	2073

管理番号	2000000002
施設名	3号排水路
工程	
管理者	水土里土地改良区
規格	FH1200×B1400~1600
用排区分	排水
延長(m)	1750

4. 属性「用排区分」でレイヤの色分けを設定します。

色分けの名前	種	色
<input checked="" type="checkbox"/> 排水	排水	Blue
<input checked="" type="checkbox"/> 用水	用水	Red



## 1.4. 既存のレイヤからユーザレイヤを作成

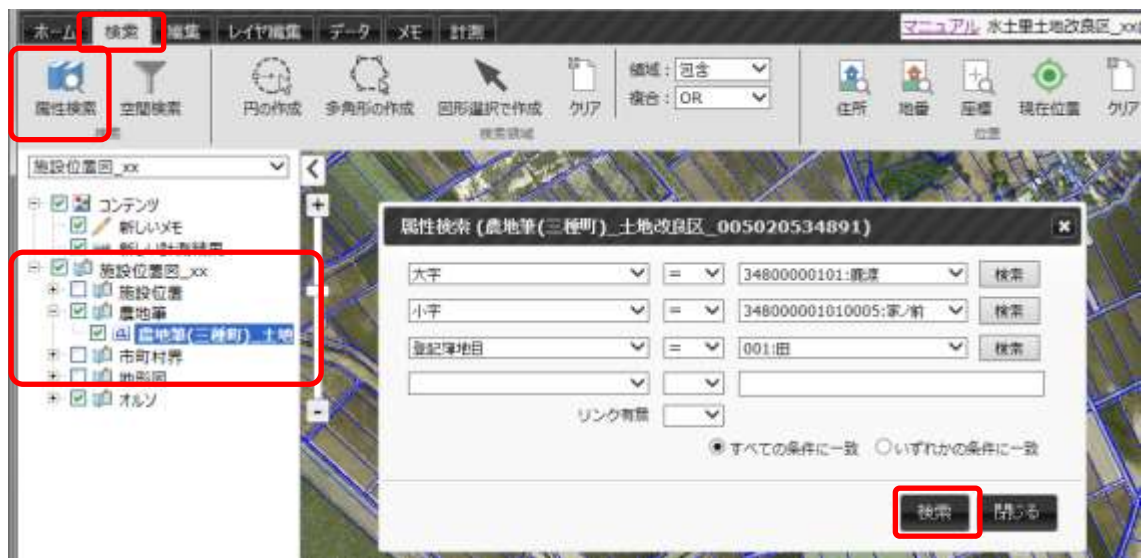
元になる既存のレイヤを表示します。

検索で図形データを選択し、ユーザレイヤにコピーして新規レイヤとします。

※ 一度にコピーできる地図データの上限は 10,000 件です。

※ 作成するレイヤの名前には、既存のレイヤの名前は指定できません。

1. 検索対象となるレイヤから、属性検索または空間検索を実行します。（本例では多角形レイヤの農地筆レイヤから字、地目で検索します）



2. 検索結果が表示されたら、[コピー] → [レイヤにコピー] ボタンをクリックします。



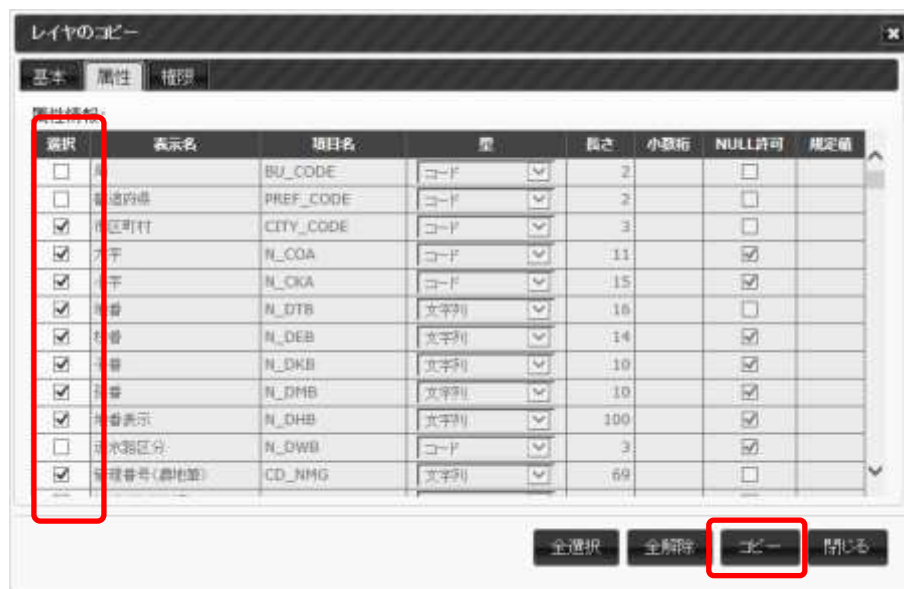
3. コピー先のレイヤを「新しいレイヤにコピー」にし [次へ] ボタンをクリックします。



4. 「基本」タブにて、コピーして作成するレイヤの名前を入力します。

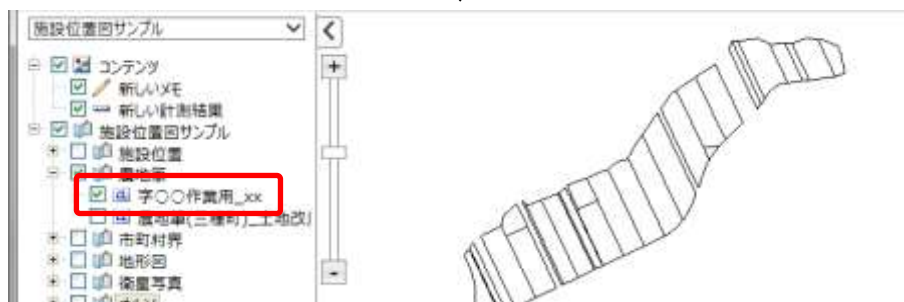


5. 「属性」タブにて、必要な属性項目にのみ「選択」欄にチェックをつけ、[コピー] ボタンをクリックします。



※この他選択するもの…登記簿地目、登記簿面積、予備項目 1~3

6. コピー方法の選択画面で、コード型項目のコピー方法を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- ※ 大量のデータをコピーすると時間がかかり、その間他の作業ができません。「一括(バッチ)で実行する」にチェックをつけると、バッチ処理として実行するので、すぐに次の作業が行えます。



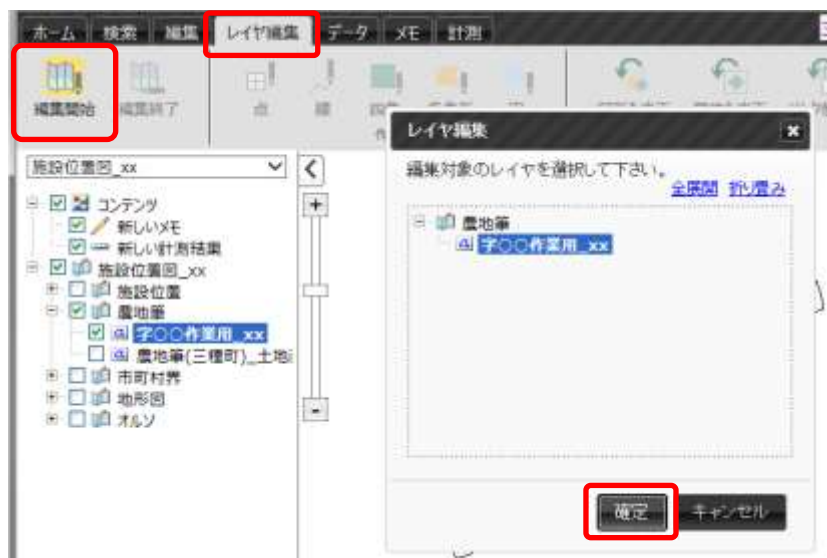
- ※ バッチで作成したユーザレイヤは自動的に表示パターンには追加されません。「表示パターン管理」から設定してください。

## 1.5. 図形の新規作成（多角形）

1. レイヤパネルから編集対象とするレイヤ（本例では1. 2で作成したユーザレイヤ）を選択します。



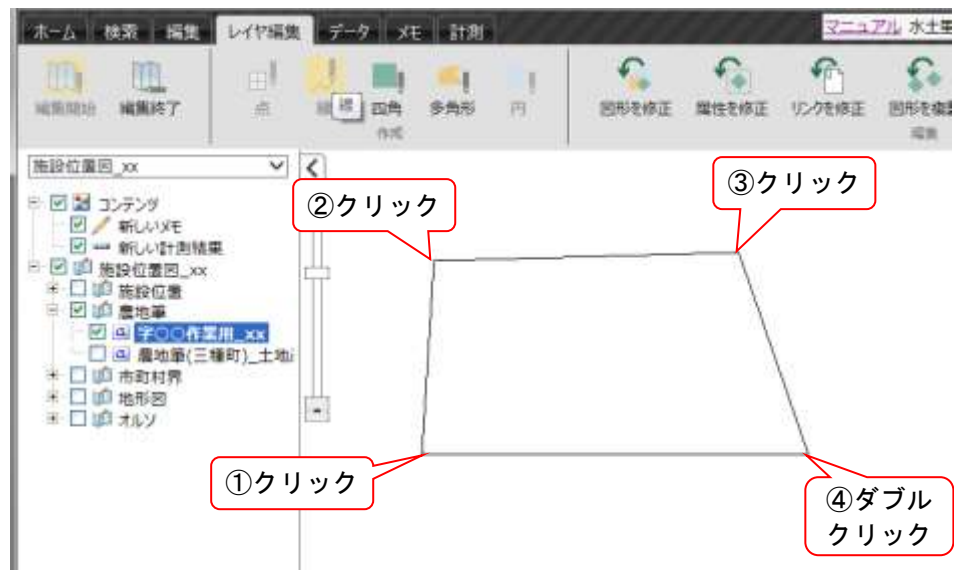
2. 「レイヤ編集」タブ内の「編集開始」を選択し、レイヤ編集画面で「確定」ボタンをクリックします。



3. 「レイヤ編集」タブ内の「多角形」を選択します。



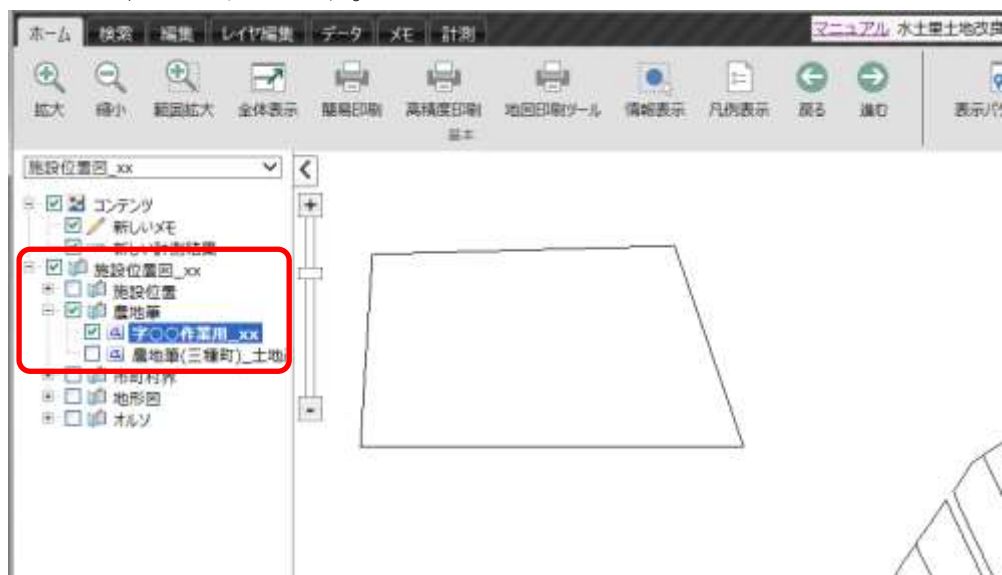
4. 作図する位置を順次、左クリックして多角形を作図します。  
ダブルクリックで多角形の形状を確定します。



※ レイヤの種類が異なる図形は作成できません。  
例：多角形のレイヤに点データ、線データなど

## 1.6. 図形の属性編集（個別）

1. レイヤパネルから編集対象とするレイヤ（本例では1. 2で作成したユーザレイヤ）を選択します。





2. 「レイヤ編集」タブ内の「編集開始」を選択し、レイヤ編集画面で[確定]ボタンをクリックします。

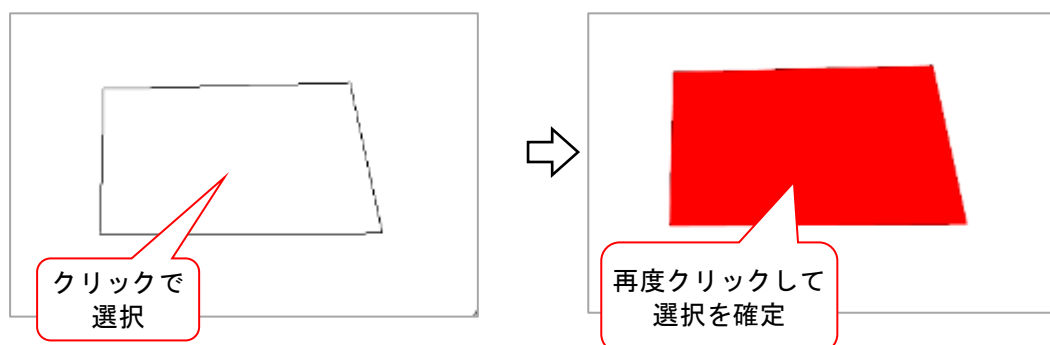


※ 既に編集が開始されていれば上の1、2の作業は必要ありません。

3. 「レイヤ編集」タブ内の「属性を修正」を選択します。



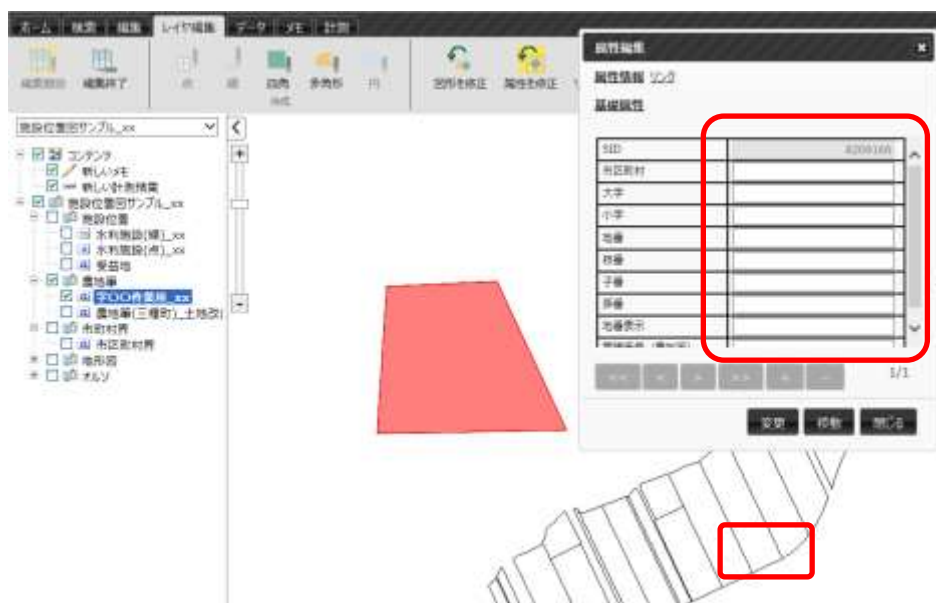
4. 形状変更対象の図形をマウスの左クリックで地図から選択します。  
図形が選択されると対象の図形が赤くハイライトされます。  
選択された図形を再度左クリックで選択します。



※ 編集対象としているレイヤ以外は選択できません。

また、レイヤを非表示にしても、図形のある場所をクリックすると選択されてしまいます。

5. 属性編集画面が表示されるので各属性項目の値を入力し、[変更] ボタンをクリックします。



※ ユーザレイヤの属性項目は「データ」タブ内の「レイヤ変更」から表示名の変更、項目の追加・削除が可能です。  
データ型や項目の順番は変更できません。

※ 「レイヤ変更」、「レイヤ削除」はそのレイヤを作成したユーザのみ行えます。



## 2. ユーザレイヤの更新

ユーザレイヤの地図データはユーザが直接更新（編集）することが可能です。地図を編集する場合は、レイヤ編集タブから操作を行います。

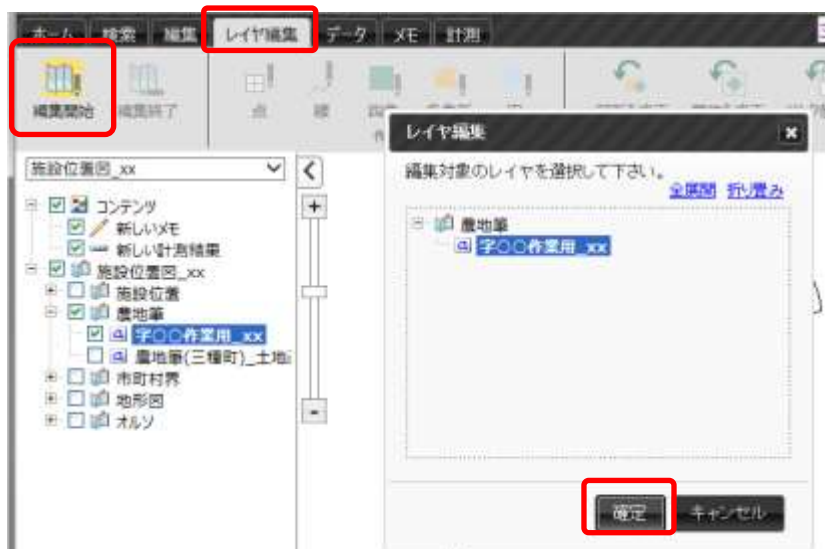
※ 編集を行う場合、更新対象のレイヤの「編集権限」が必要です。

### 2.1. 図形の形状変更

1. レイヤパネルから編集対象とするレイヤを選択します。



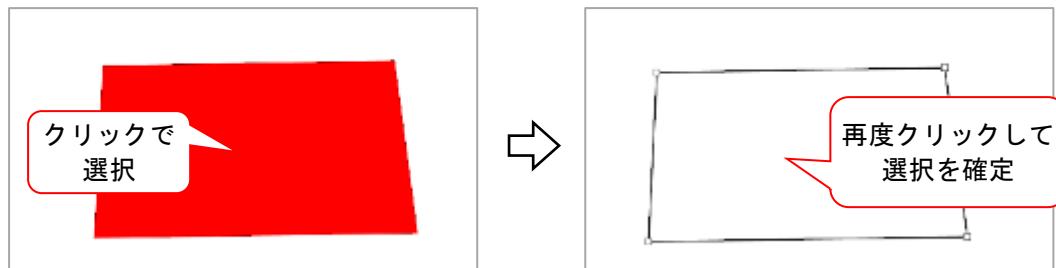
2. 「レイヤ編集」タブ内の「編集開始」を選択し、レイヤ編集画面で[確定]ボタンをクリックします。



3. 「レイヤ編集」タブ内の「図形を修正」を選択します。

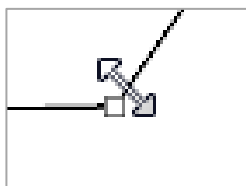


4. 形状変更対象の図形をマウスの左クリックで地図から選択します。  
図形が選択されると対象の図形が赤くハイライトされます。  
選択された図形を再度左クリックで選択します。  
選択された図形の各頂点に白い四角が表示されます。



※ 選択対象の図形が小さく、他の図形と密集している場合には、選択図形を右クリックで切り替えることが可能です。

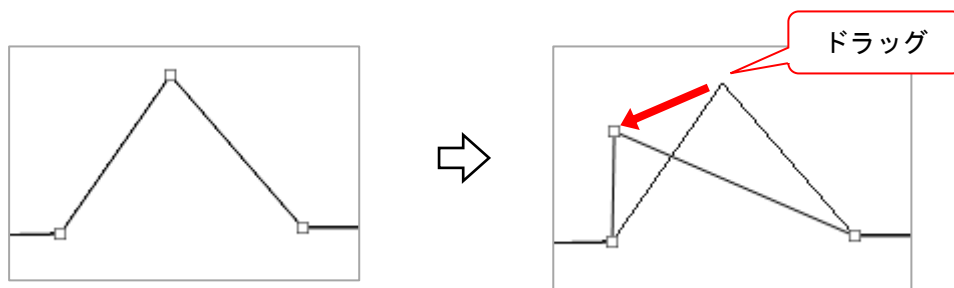
5. 選択された図形はマウスの左ドラッグの操作で形状を変更します。  
編集する図形の頂点や辺の上にマウスカーソルを置くと、カーソルが斜め両矢印に変わります。



この状態でドラッグして頂点や辺を移動させ、移動後の位置でドロップすることで形状を変更します。  
形状の変更後、編集の確定を行うことで、図形の形状を確定させます。

### [頂点位置の変更]

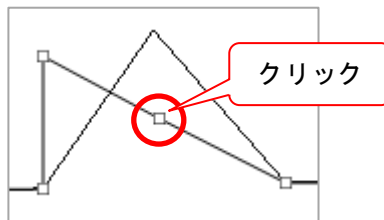
編集する図形の頂点の上でマウスカーソルが斜め両矢印になっていることを確認します。  
頂点上でドラッグし、移動後の位置でドロップすると頂点が移動します。



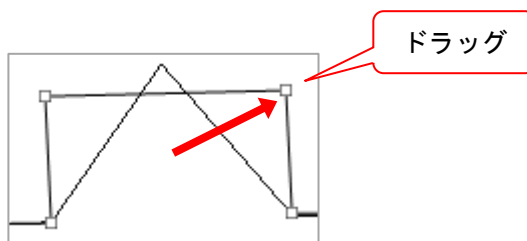
## [頂点の追加]

編集する図形の辺の上でマウスカースルが斜め両矢印になっていることを確認します。

辺上で左クリックすることで、頂点が追加されます。



追加した頂点は頂点位置の変更操作で、位置を移動できます。



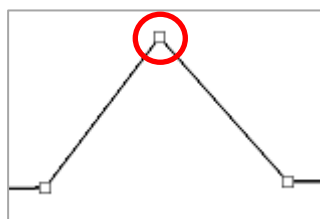
## [頂点の削除]

編集する図形の頂点の上でマウスカースルが斜め両矢印になっていることを確認します。

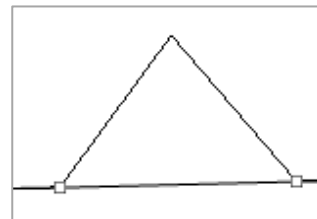
頂点上で右クリックすると図形の編集メニューが表示されるので、メニュー上で「頂点を削除」を選択すると頂点が削除されます。



削除前



削除後



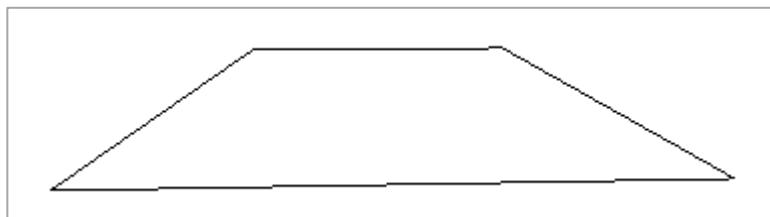
- ※ 多角形の図形については3点以上頂点が存在する必要があります。  
削除する頂点が存在しない場合、図形編集メニューの「頂点を削除」を選択することはできません。

### [辺の移動]

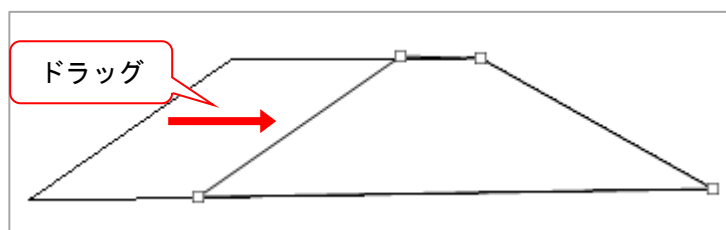
編集する図形の辺の上でマウスカースルが斜め両矢印になっていることを確認します。

辺上でドラッグし、移動後の位置でドロップすると辺が移動します。

移動前



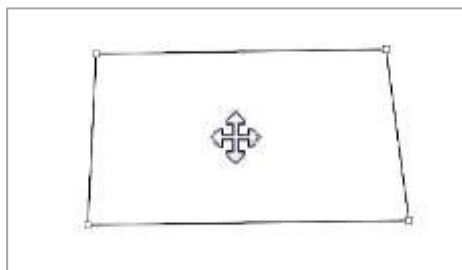
移動後



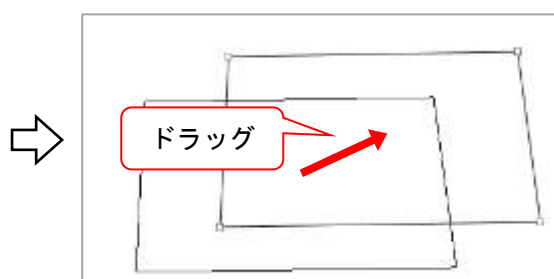
### [図形の移動]

選択した図形上（図形の中）にマウスカースルを置くと、カーソルが上下左右の白矢印に変わります。ドラッグして移動します

移動前



移動後



### [確定及びキャンセル]

編集した図形の外でマウスを左クリックすると編集が確定します。

編集した図形の外でマウスを右クリックすると編集をキャンセルします。

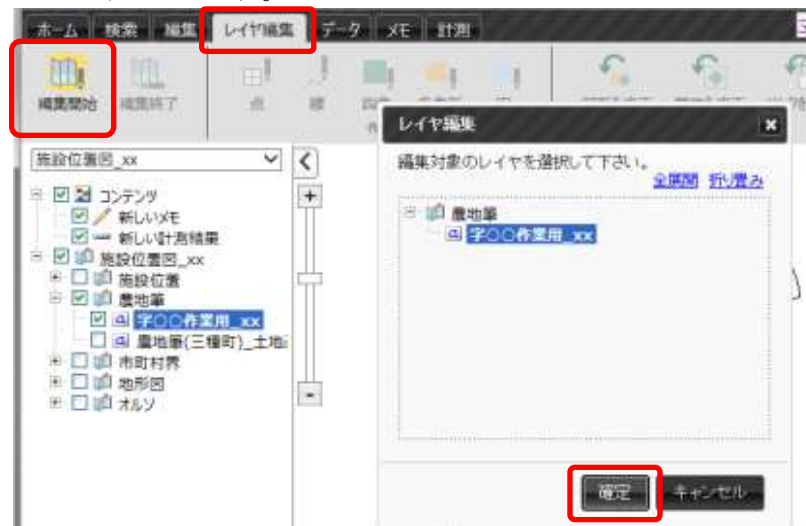
または図形の中で右クリックし、ショートカットメニューから選択します。

## 2.2. 図形の削除

1. レイヤパネルから編集対象とするレイヤを選択します。



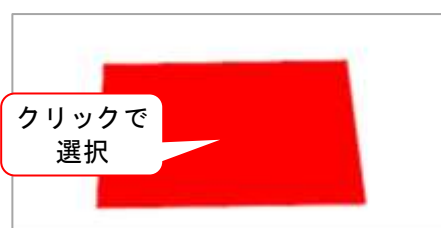
2. 「レイヤ編集」タブ内の「編集開始」を選択し、レイヤ編集画面で[確定]ボタンをクリックします。



3. 「レイヤ編集」タブ内の「図形を削除」を選択します。



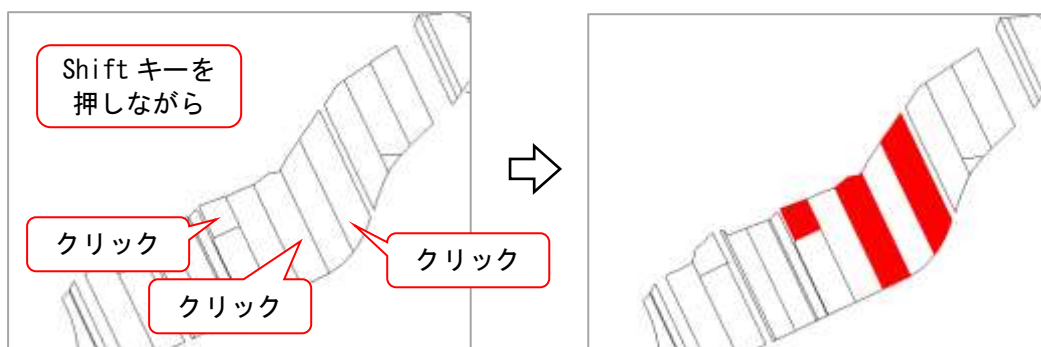
4. 削除対象の図形をマウスの左クリックで地図から選択します。  
図形が選択されると対象の図形が赤くハイライトされます。



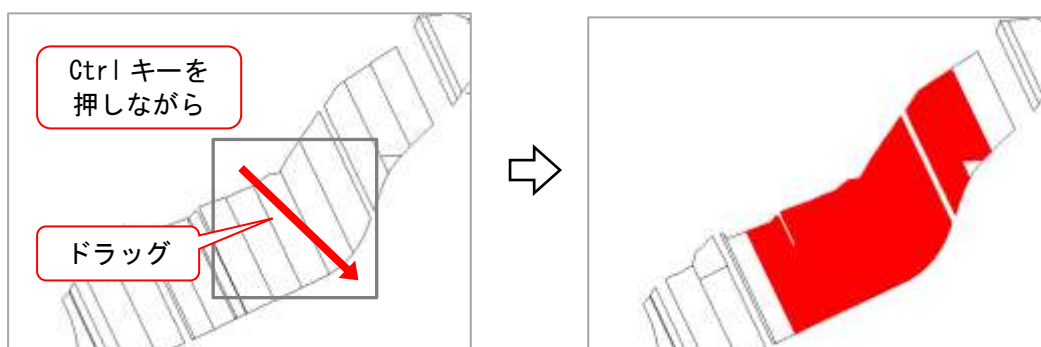
5. 再度左クリックで選択すると、確認メッセージが表示されるので [はい] ボタンをクリックします



- ※ 図形を選択するとき、「Shift」キーを押しながらクリックすると、複数の図形を選択することができます。



- ※ 「Ctrl」キーを押しながらドラッグすると、描かれた矩形にかかる複数の図形を選択することができます。

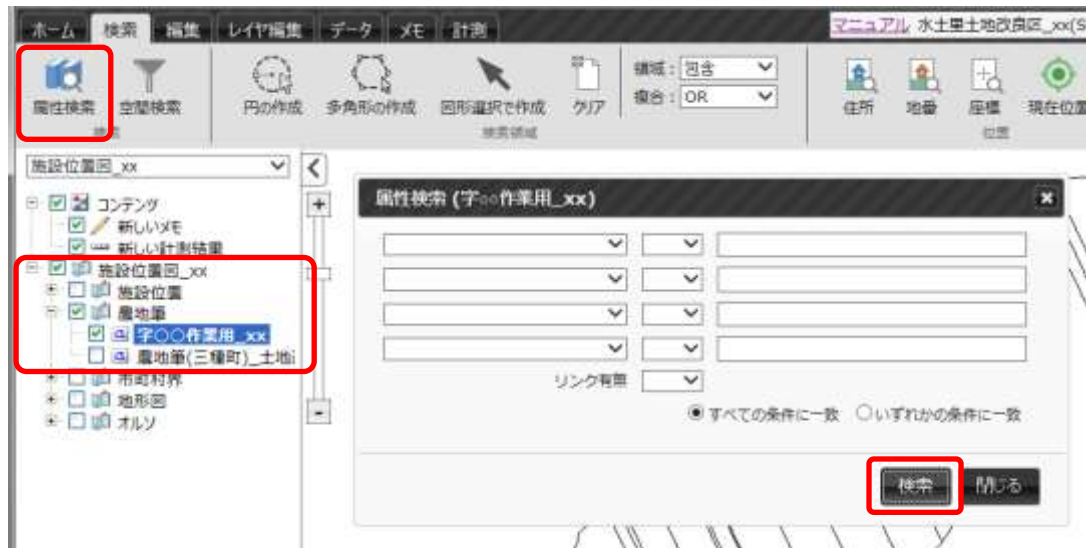




## 2.3. 図形の属性編集（一括）

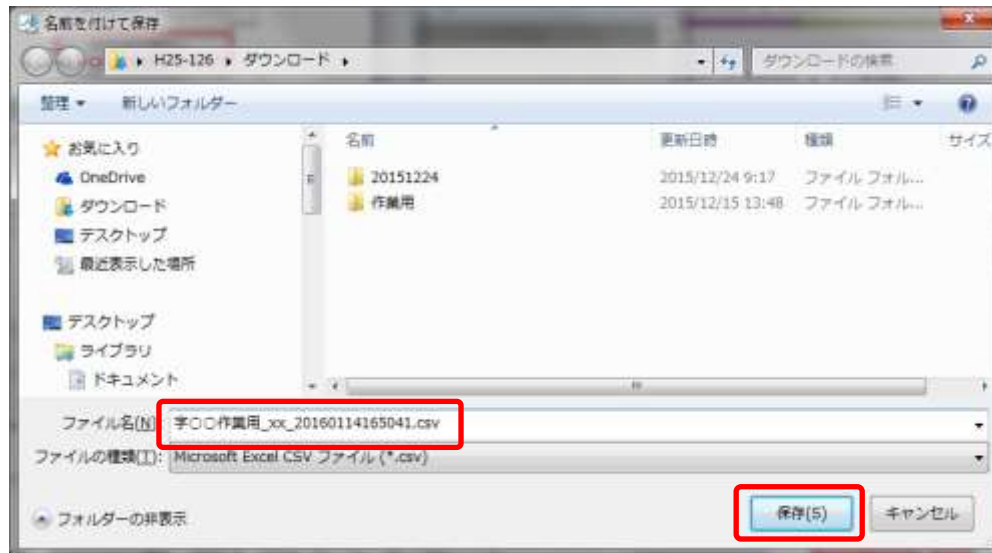
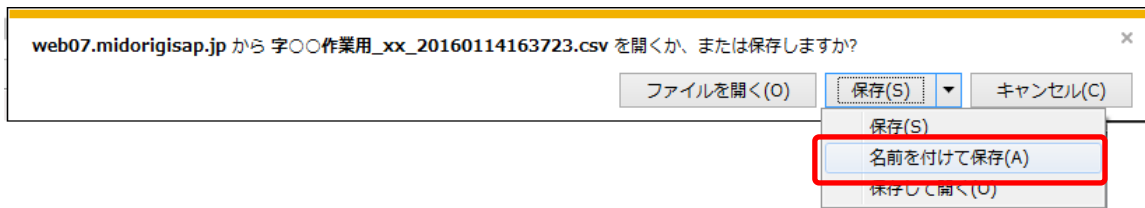
図形の属性情報を CSV ファイルに出力し、Excel 等で編集したものを再度システム上のユーザレイヤに取り込むことで、属性の一括編修を行います。

1. 属性検索、または空間検索を実行し一括編修の対象となるデータを属性検索結果画面に表示し、（本例では1. 2で作成したユーザレイヤから全ての図形を検索） [出力] → [CSV形式で出力] ボタンをクリックします。



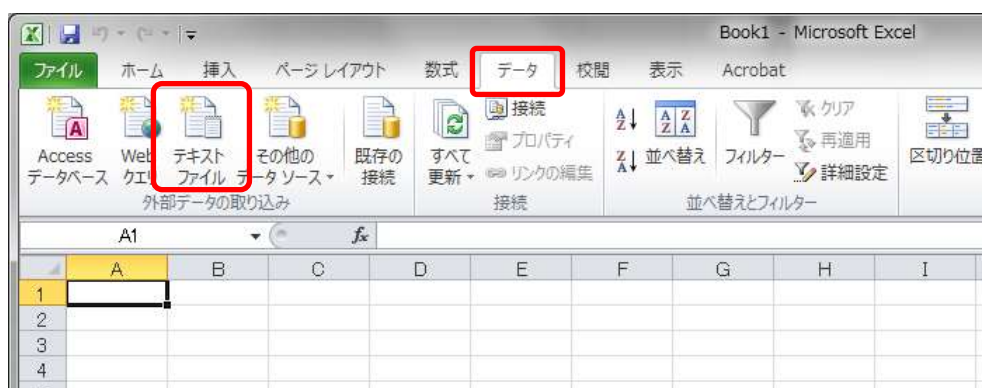
※ 一度に CSV 出力できるデータの件数の上限は 10,000 件です。

- ダウンロードの確認画面が表示されるので、「名前をつけて保存」を選択し、任意のフォルダに CSV ファイルを保存します。

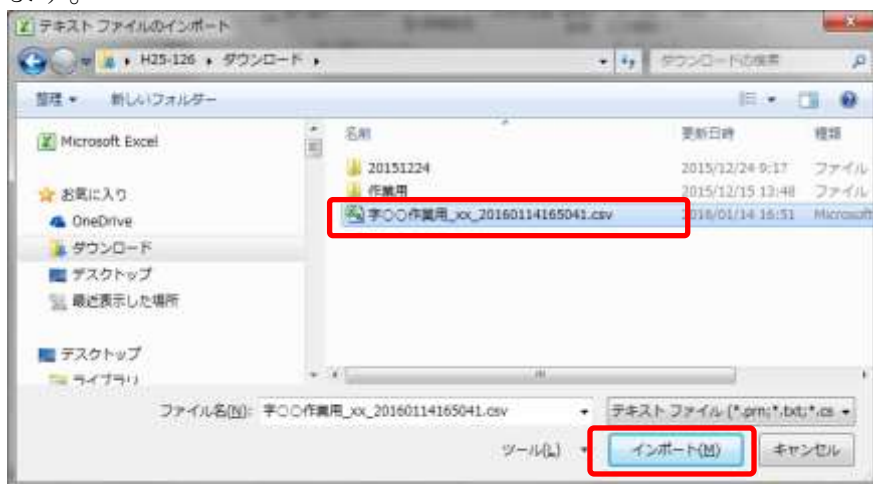


ファイルを保存したら、ダウンロード画面と属性検索結果画面は閉じます。

- 「Microsoft Excel 2010」を起動し、「データ」タブから「外部データの取り込み」内の「テキストファイル」を選択します。

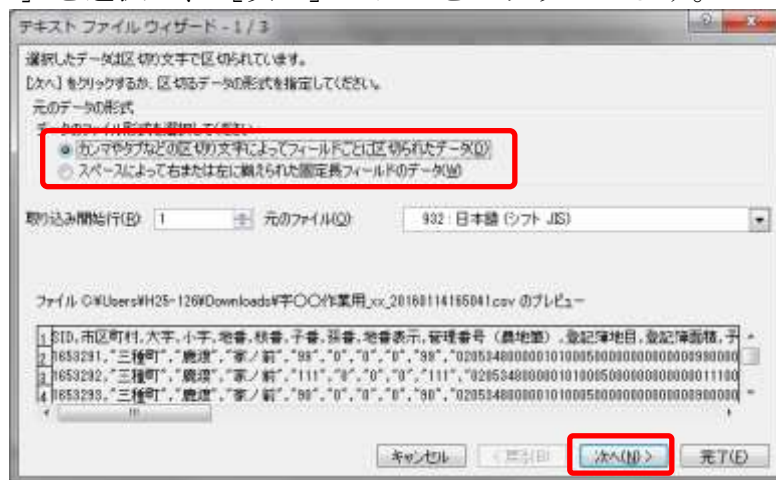


4. ダウンロードした CSV ファイルを選択し、[インポート] ボタンをクリックします。

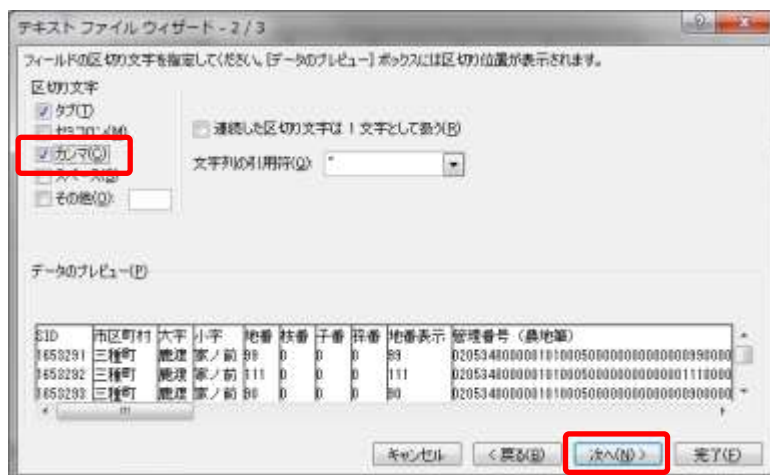


5. 「テキストファイルウィザード」画面にて以下の操作を行います。

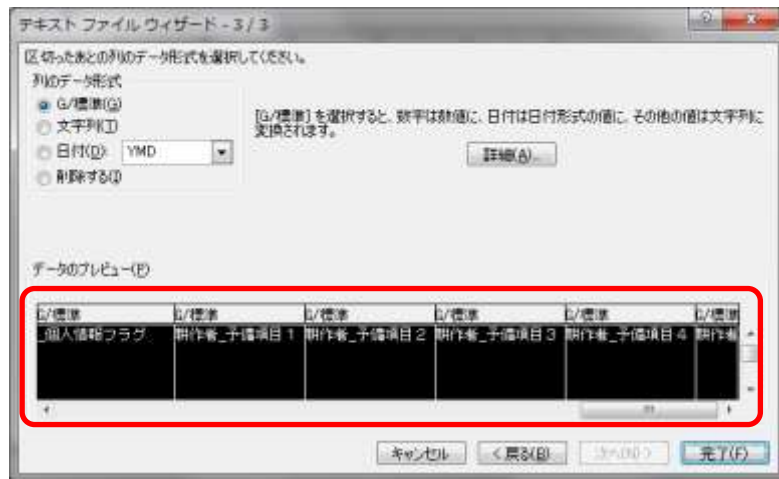
- ① 「カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



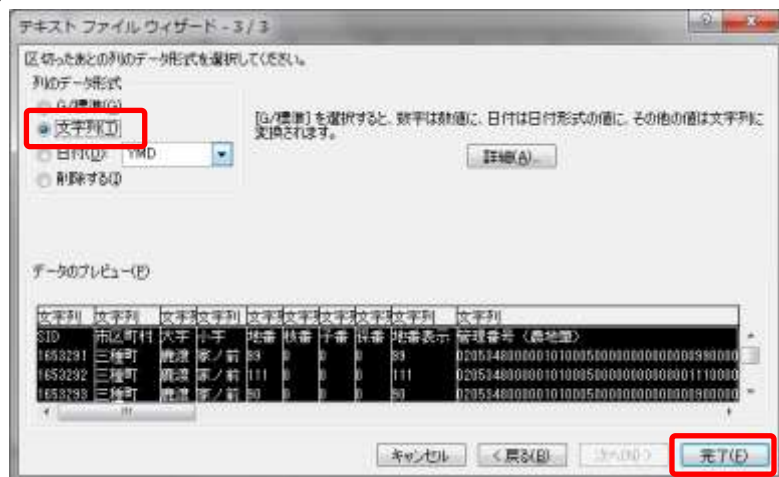
- ② 「区切り文字」の「カンマ」にチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



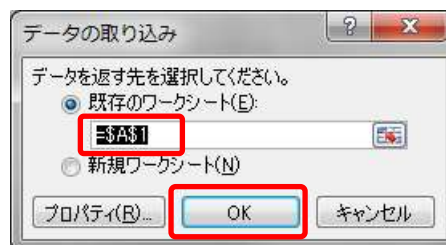
- ③ 「データのプレビュー」のスクロールを一番右まで移動し、「Shift」キーを押しながら右端の列を選択して全ての項目を選択します。



- ④ 「列のデータ形式」を「文字列」に変更し、「完了」ボタンをクリックします。

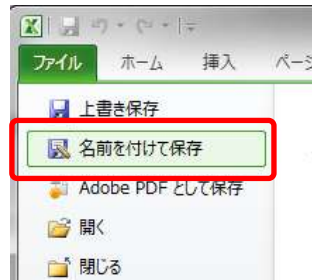


- ⑤ 「データの取り込み」画面にてデータを返す先を「=Sheet1!\$A\$1」と設定し「OK」ボタンをクリックします。

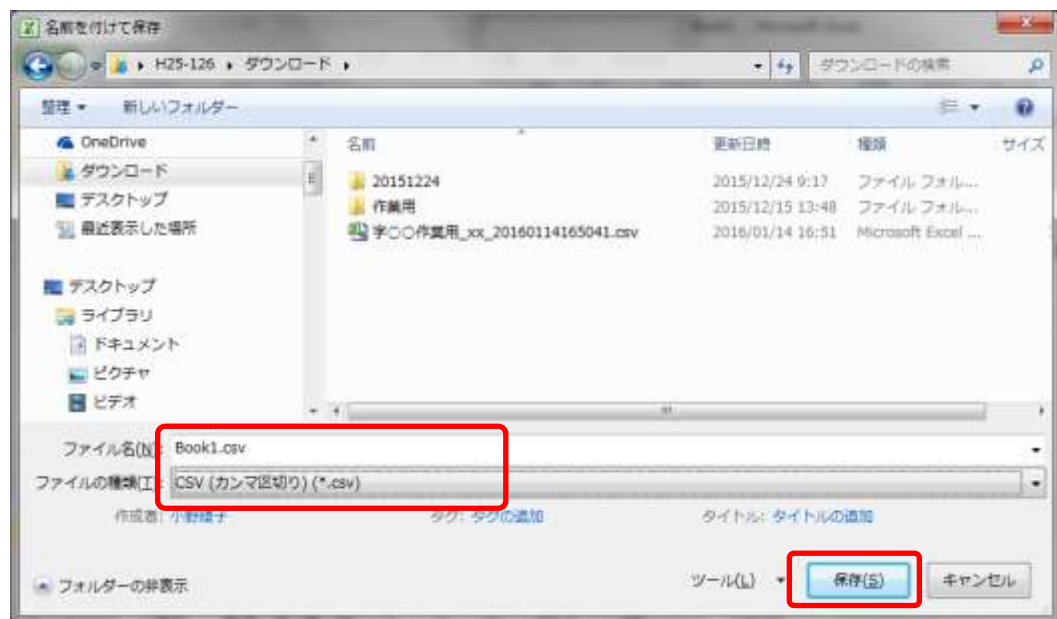




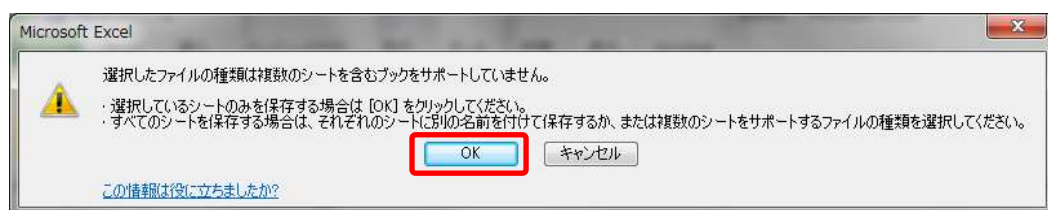
- ⑦ 「ファイル」タブを選択し、「名前を付けて保存」を選択します。



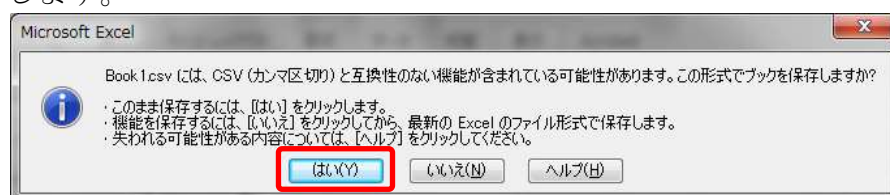
- ⑧ 保存場所、ファイル名を入力し、「ファイルの種類」を「CSV (カンマ区切り) (\*.csv)」に設定して [保存] ボタンをクリックします。



- ⑨ 警告メッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。



- ⑩ 続けて、確認メッセージが表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。



- ⑪ 「Microsoft Excel 2010」を終了します。

6. 編集した CSV ファイルを取り込みます。

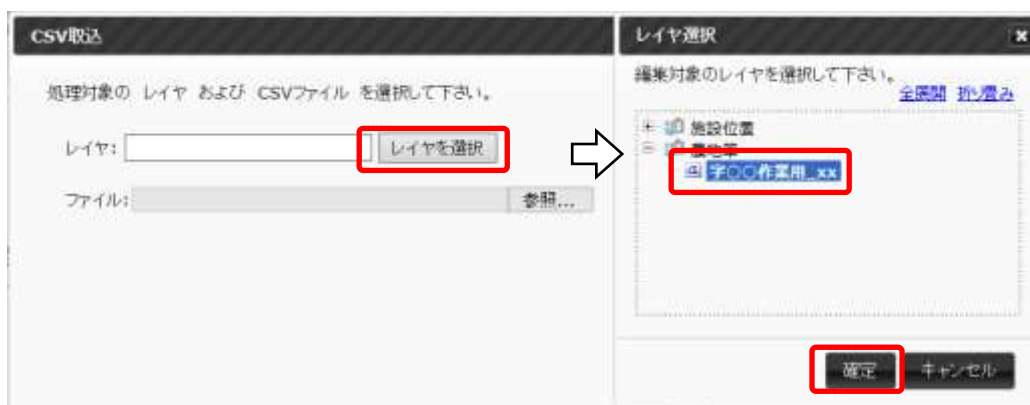
- ① レイヤパネルから対象とするレイヤ（本例では1. 2で作成したユーザレイヤ）を選択し、「データ」タブ内の「CSV 取込」を選択します。



- ② 「基礎属性の一括更新」にチェックをづけてにて [次へ] ボタンをクリックします。



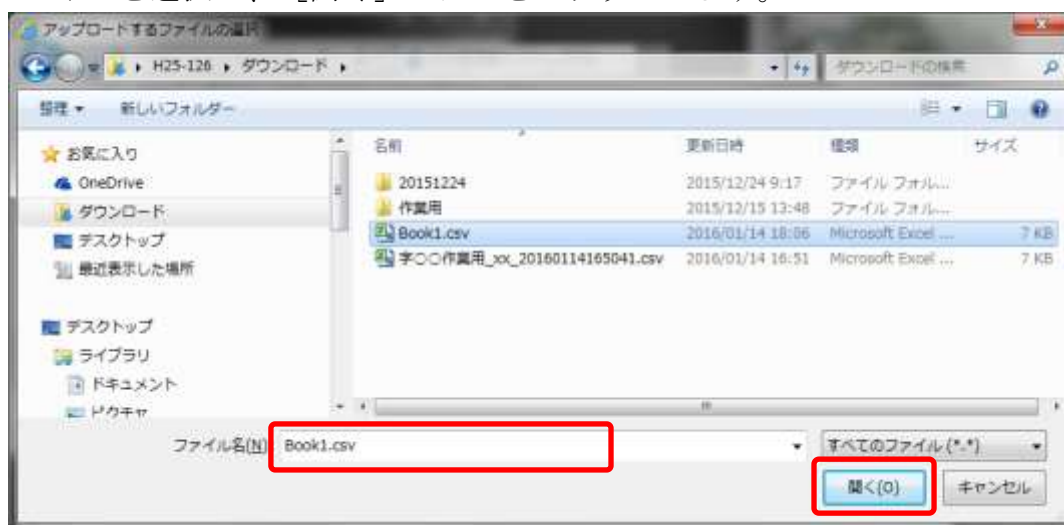
- ③ CSV 取込画面にて「レイヤを選択」をクリックし、取り込み対象となるレイヤを指定します。



- ④ 「参照」を選択します。



- ⑤ 「アップロードするファイルの選択」画面にて、5 で保存した CSV ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。



- ⑥ CSV 取込画面にて [次へ] ボタンをクリックします。





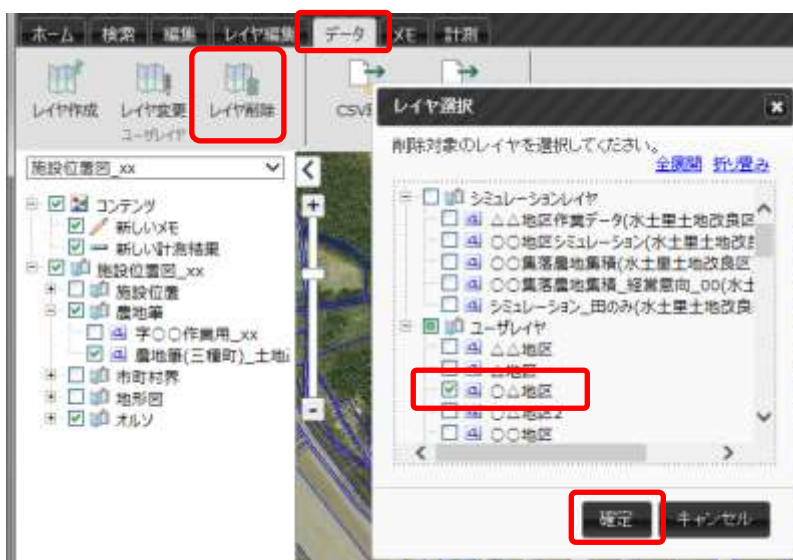


## 2.4. ユーザレイヤの削除

不要になったユーザレイヤは削除します。

※ 「レイヤ削除」はそのレイヤを作成したユーザのみ行えます。

1. 「データ」タブ内の「レイヤ削除」を選択し、レイヤ選択画面で削除するレイヤにチェックを付け、[確定] ボタンをクリックします。



※ このとき、現在表示している表示パターンに含まれないユーザレイヤも表示されるので、レイヤの選択には注意してください。

## 3. データ共有

水土里情報システムはWeb GISシステムです。ユーザが情報やデータを共有することができます。各データに対し、編集の可否などの権限やデータの公開対象を設定することができます。

※ 設定はシステム管理者が行います。

### 3.1. レイヤ権限について

グループまたはユーザごとにシステム管理者がレイヤ権限を設定します。ユーザが作成したレイヤは、そのグループ内のユーザに対して全ての権限が付与されます。

権限	説明
参照	レイヤの閲覧が可能です
印刷	参照に加えて印刷が可能です
属性出力	CSV出力が可能です
リンク編集	図形に関連ファイルを紐づけることができます
編集	図形、属性の編集が可能です
コピー	このレイヤからユーザレイヤの作成が可能です

#### レイヤ権限イメージ

レイヤ名	参照	印刷	属性出力	リンク編集	編集	コピー
オルソ	○	○				
農地筆 xxxx	○	○	○	○		○
ユーザレイヤA	○	○	○	○	○	○

### 3.2. 表示パターンと公開範囲について

表示パターンごとにシステム管理者が公開範囲を設定します。

権限	説明
全体公開	全てのグループ及びユーザに公開されます
グループ公開	所有者の所属するグループのみに公開されます
所有者のみ	公開されず、所有者のみが使用できます（初期値）
カスタム	公開するグループおよびユーザを細かく設定します

### 3.3. ユーザレイヤ、表示パターンの共有利用例

研修用ユーザにて閲覧可能です。

#### 例1) 施設位置図サンプル (本研修で使用した表示パターン)

作成したユーザレイヤは、グループ内で共有し閲覧・編集が可能です。

グループ内の各ユーザが表示パターンを作成、または自身が所有する表示パターンへ追加して利用することが可能です。

表示パターンとあわせて共有する場合は、システム管理者へ共有するユーザレイヤとその権限設定、表示パターン、共有する範囲（グループ内、ユーザごと、グループ外の場合はその範囲等）を申請します。

- 表示パターン「施設位置図\_xx」にグループ内の他のユーザが作成したユーザレイヤを追加してみましょう。
- 受益地レイヤに多角形を追加してみましょう

#### 例2) 事業位置図、全体図

各担当者のみが編集できるレイヤに各自の担当する地区の位置図と属性を入力し、それらを表示パターンに集めて全体の位置図として利用します。

この仕組みの構築はシステム管理者が行います。

- 表示パターン「事業位置図\_xx」で事業位置図\_xx レイヤに多角形を追加してみましょう
- 表示パターン「事業位置全体図」で事業位置図\_xx レイヤに多角形を追加してみましょう

#### 例3) 多面的機能支払活動組織位置図、市町村別位置図

同一のレイヤを使用した表示パターンでも、活動組織の協定対象区域を全市町村ぶん一覧にした表示もの、市町村別に詳細に表示したものと、レイヤの組み合わせや設定で複数の表現が可能です。

市町村別の位置図では、その市町村の農地筆に対して閲覧権限のあるユーザは区域内外にある地番をあわせて確認することができます。

- 表示パターン「活動組織位置図\_348\_三種町」で区域と農地筆の地番を確認してみましょう。また、他の市町村とデータの見え方を比べてみましょう。

### 3.4. 関連ファイル

地図上の図形や属性情報以外に、写真やPDFといった個別ファイルを管理する機能が「関連ファイル」です。

関連ファイル機能は、「ホーム」タブ内の「関連ファイル管理」を選択します。保存した関連ファイルはレイヤ上の図形にリンク設定することが可能です。



- 表示パターン「農業水利施設データベース」で、水利施設にリンクされた関連ファイルを確認してみましょう。

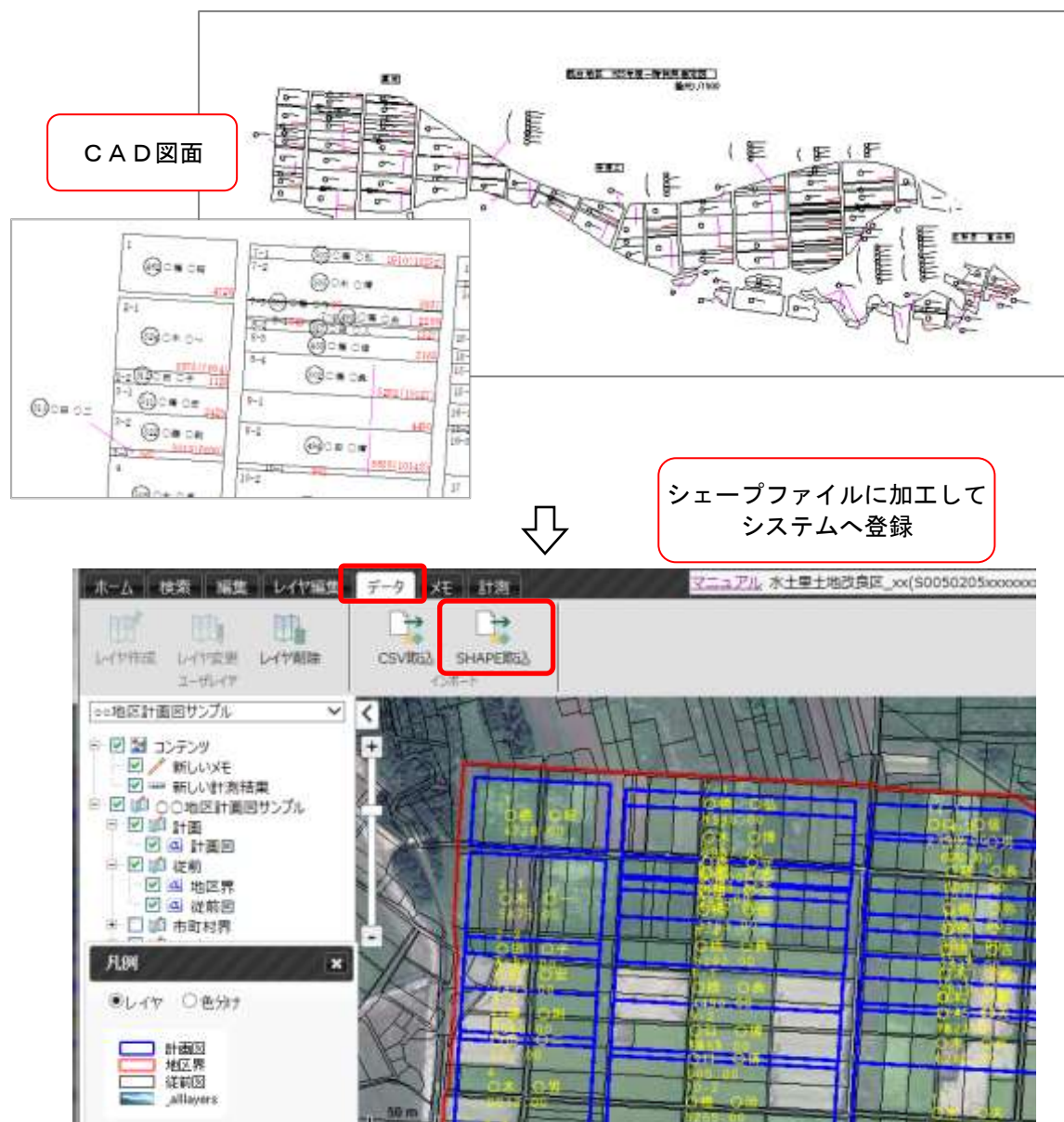
### 3.5. シェープファイルのインポート

シェープファイル(Shape File)とは、「位置情報と属性情報を持った図形のベクタデータ」で、GIS ソフトウェアで利用されます。

手持ちの地図をシェープファイルに変換すれば、水土里情報システムのユーザレイヤへ登録することができます。

#### 例 1) ほ場整備の計画図

CAD で作成したほ場整備の計画図面をシェープファイルに加工し、水土里情報システムで公開して地元説明会などに活用することができます。



- 表示パターン「〇〇地区計画図サンプル」で、従前（現況）と計画を比較してみましょう。